

仙台市議会議員（宮城野区）

赤間 次彦 市議会通信

平成 28 年第 3 回定例会報告

2016 年 夏 号

発行/赤間次彦 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字今市東 18-1 TEL・FAX: 022-255-0095
http://www.sendai-akama.jp mail@sendai-akama.jp

平成 28 年第 2 回定例会報告

日頃よりの仙台市政へのご協力に感謝申し上げます。

今回の仙台市議会報告は、平成 28 年第 2 回定例会（6 月 10 日～27 日）の報告をさせていただきます。第 2 回定例会では、12 億 7500 万円を増額する一般会計補正予算など 11 議案を可決いたしました。

また、子ども医療費助成制度の拡充を実施する答弁も聞かれ、子育て世代の一助となるよう、より充実した制度になるように強く働きかけてまいります。

今回のレポートは「自由民主党」の代表質疑と答弁の要点、平成 28 年度の宮城野区内の主要事業を記載させていただきました。

是非一読いただき皆様の仙台市政へのご意見を頂戴したいと考えております。

財務大臣・中央銀行総裁会議について

質問 先月 G7 仙台財務大臣・中央銀行総裁会議が開催された。今回を契機として、さらなる国際コンベンションの誘致活動に繋げていく努力が求められるが、今回をどのように総括しているのか。

答弁 世界的に注目度の高い会議が開催され、多くの方々のご協力をいただき、事故もなく無事に終了し、仙台市の会議支援能力に高い評価をいただいた。風評被害の払拭に向けては、旧荒浜小学校と南蒲生浄化センターを視察いただき、復興の状況を世界に発信したほか、食や伝統芸能、温泉などの仙台・東北の文化を前面に出したおもてなしが参加者から非常に好評だった。

本市のコンベンション都市としての知名度や評価は数段上がったものと考えており、今後も誘致活動に力を入れていく。

復興関連事業について

質問 東日本大震災から 5 年が経過し、被災者の住まいの生活再建の道筋が見えてきた感がある。しかし、再建の方針は決まっても終了までに再建できないケースも考えられる。その場合でも、支援の対象から外れる事のないように丁寧な支援が求められる、その対応は。

答弁 仮説住宅に入居の方々は、ピーク時の 5 分の 1、約 2,300 世帯となっている。再建が進まない方もおり、こうした

方々には、相談に加え、不動産会社と一緒に訪問する伴走型支援など、個別支援を強化してきた。今後も丁寧な対応に努め、仮説住宅に入居されている全ての皆様が一日でも早く住まいの再建が果たせるよう全力で支援していく。

質問 震災から 5 年という節目を迎え震災の教訓を後世に伝承し、世界に発信する理念を明確にした上で、構想を定め、深化させていく必要がある。メモリアル事業全般の進め方と市長の決意は。

答弁 単なる施設整備にとどまらず、震災の記憶や経験を 50 年後、100 年後に伝えていこうとする持続的な活動そのものである。本市独自の施設を考えており、災害の脅威を体感でき、伝承するという機能を基本とし、震災時に発揮された市民の力、地域の力といった「仙台の特質」を活かした取り組みが鍵になる。

今後、基本構想づくりの中で、幅広い視野で捉え、各種の取り組みを一体的に推進・持続させていく。



震災遺構と保存が決まっている旧荒浜小学校

質問 震災復興計画の終了と共に復興事業局が廃止され3局に組織が分かれた。復興を成し遂げる為の体制のあり方は。

答弁 復興事業を引き継いだ3局を中心に役割を着実に果たしていく必要がある。今年度は、連絡調整会議を日常的に行い、情報の共有を図っている。今後も、連携を密にして、復興の仕上げに向けた取り組みを進めていく。

熊本地震災害について

質問 熊本地震で本市は、災害の初期対応から避難所運営、罹災証明等各業務支援のほか、災害対策本部へアドバイザーも派遣し、復旧を軌道に乗せる役割を果たしてきた。一方で、甚大な被害に見舞われた益城町等周辺の市町村では、未だ復旧の道筋も不透明で、課題が山積している。こうした市町村にも、支援を行うべきではなかったか。

答弁 広域・大規模災害時の支援は、指定都市市長会において行動計画を策定し、指定都市が被災市町村を支援する枠組みを構築していた。今回、全国知事会との協議で、熊本市は政令市市長会、他の市町村は県知事会が支援にあたるという役割分担の下で臨むこととなった。

質問 今回の地震は、断層に起因した直下型大規模地震の破壊力と、強い余震が連続する恐ろしさを見せつけられた。本市も長町利府断層による直下型地震が想定され、地震対策を再検討すべきだが、如何か。

答弁 熊本地震では、震度7の地震の繰り返しや、強い余震の継続により、建築物に甚大な被害が発生したほか、避難行動の長期化や多数の車中泊の発生など新たな課題も明らかとなった。今後、本市の地震対策を再検証し、必要な見直しを行っていく。

子ども医療費助成について

質問 市議会4会派代表が制度の充実強化を求める申入れを行い、「より良い子育て環境を提案できるよう、知恵を絞っていききたい」との発言をいただいた。申入れをどの様に受け止め、いかに進めていくのか。また、県知事も補助制度を拡充する方針を表明した。市長は知事の決断をどう受け止めているのか。

答弁 子ども医療費助成制度は、これまでも市議会において様々な議論をいただいていたが、改めて4会派の代表から、制度拡充の強化を求める強い要望をい



4会派代表と共に子ども医療費助成拡充の陳情へ

ただき、大変重く受け止めている。子育て環境を充実させる意味でも、喫緊の課題であり、拡充に向けた取り組みを進めていきたい。また、村井知事の拡充にむけた決断は大いに歓迎している。

質問 県の拡充内容は秋までに示されるというが、県に関わらず独自の医療費助成の水準を示し努力すべきだ。市長はどんな考えか。

答弁 県の拡充内容を見定めつつ、制度設計を急ぎ、来年度中に拡充するよう、最大限の努力をしていく。

質問 実施時期は来年度中のいつ頃か。

答弁 制度設計にも一定の時間が必要で、ソフトの改善も必要なことから、鋭意指示をしているが、現時点では来年度中の実施に向けて頑張らせていただく。

質問 本市としてどの程度拡充していくつもりか。

答弁 仙台の子どもたちにとって、また親御さんにとってメリットの大きい方向になるよう精査している。現時点では、明快な数字を示す段階にはないが、多くの会派から要望をいただいていることを踏まえ、鋭意取り組んでいく。

マイナンバーカードについて

質問 マイナンバーは、利便性が向上すると認識しているが、申請してからカード交付までに半年以上もの期間がかかっている。すでに申請されている方々に対して可能な限り早期に交付できるよう積極的に取り組むべきで。

また、いつ頃届くのか見込みを示し、よりわかり易く知らせる工夫をするなどは如何か。

答弁 交付は、5月末時点で9万9千件の申請に対し2万5千件交付し、交付率は25.8%で、未だ多くの皆様にお届けできていない。これはシステムの不具合と、想定以上の時間を要することが主な原因だ。現在は、住民異動の繁忙期も過ぎ、環境にも若干の改善が見られ、早期の交付に最優先で取り組んでいく。また、交付時期の把握が可能となる一覧表をホームページへ掲載するなど、わかりやすい広報にも取り組んでいく。

待機児童対策について

質問 基盤整備をすすめ、昨年度だけでも約1,400人分の保育施設を増加させた。これらの取り組みで待機児童数が昨年比で半減し、213人となった事についての認識は。

答弁 半減に至ったのは、基盤の拡充に加え、各区の保育サービ相談員を2名に増員し、きめ細かな情報提供と利用調整を行ってきたことが効果を表した。一方で多くの児童が入所できない状況もあり引き続き待機児童対策を講じていく。

質問 今定例会の補正予算は、どんな狙いで提案されているのか。

答弁 国の制度拡充に伴い、保育所整備時の際の改修費や、土地を賃借する際の賃借料の補助基準額を増額するものだ。これにより、保育所の整備が一層促進されることを狙っている。

子育て支援に資する取り組みについて

質問 小規模保育の利用を選択する不安要素として、卒園後の預け先の確保がある。私立幼稚園を対象とした説明会が開催され、新たな支援策が示されたと聞いたが、この内容は。

答弁 幼稚園を安心して利用いただくためには、保育所と同程度の保育時間を確保する必要がある。新たな策は通常教育時間を含め11時間以上の保育時間を確保し、預かり保育にかかる人権費を補助するものだ。

質問 今後3歳児未満の保育と私立幼稚園との連携を図る取り組みとは。

答弁 幼稚園に対し近隣の保育事業の情報を提供するなど、個別相談を行いながら、連携を促進し3歳以降の適切な教育・保育の場の確保を図っていく。

質問 本市が子供を育てる上で魅力ある街として若い世代から選択され続けるためにも、幼児期の教育・保育の充実が欠かせない。どう取り組んでいくのか。

答弁 幼児期の教育・保育は、人格形成の基礎を培い、生きる力と学ぶ土台をつくるために極めて重要である。安心して

質の高い教育・保育を享受する環境が整っていることは、大きな魅力となり、若い皆さんに選ばれまちづくりを進めていきたい。



インバウンド推進事業について

質問 今回の交付金事業はどんな狙いの元に提案されたのか、その内容は。

答弁 海外での風評被害の払拭と、外国人観光客の呼び込みを通じ、被災地復興を加速させることを目的に新設された。国際航路路線の誘致、外国人観光客の満足度向上やプロモーション活動に取り組み、交流人口の増加を目的としていく。

質問 今後首都圏や関西圏に集中する訪日外国人観光客の流れを如何に東北地方、そして本市に呼び込むのか。

答弁 ターゲットとなる国やニーズに応じ本市・東北の優れた魅力を的確に伝え、満足度の高い滞在環境を提供していくことが重要だ。ニーズや特性に合わせ、誘客施策の重点化も図っていききたい。

質問 課題として、絶対数が少ないと指摘される宿泊施設の確保が挙げられる。今後、宿泊数のキャパシティを増やす取り組みをどう検討しているのか。

答弁 施設の新規立地や拡張は、事業者が決定するものであり、本市としては観光客の増加やコンベンションの誘致など、継続的な宿泊需要の創出に取り組み、収容能力の拡大を促していきたい。

東北大学農学部の跡地利用について

質問 地区周辺の道路は恒常的に混雑する時間帯があり交通対策が重要だ。想定される諸課題に対応し、地域住民に理解される取り組みを求める。

答弁 計画では商業施設内に自動車通路を設けるとしている。施設の設計と合わせ周辺道路を含めた施設整備や安全対策についても協議を進めている。今後も、宮城県警と協力しながら、住民の方々へ説明を行い適切な交通対策を実施するよう事業者を指導していく。

質問 将来的に児童の増加により過大校となる懸念があるが、見通しは。

答弁 上杉山通小学校は増加が見込まれることから、校舎の増築を行い今年度より供用を開始した。現時点では、数年後に31学級以上の過大規模校となる可能性があるが、現在の校舎で対応可能と考えおり、上杉山中学校でも同様と認識している。



平成28年度 宮城野区内主要事業(抜粋)

震災からの復興と災害に強いまちづくり

● 東部復興道路整備

◇ 県道塩釜亘理線等かさ上げ

- ・ 延長 約10Km (七北田川～名取川まで)
- ・ 盛土高さ 約6m
- ・ 車線数 2車線 (かさ上げ)

【平成28年度】 用地取得、整備工事

◇ 避難道路

- ・ 南蒲生浄化センター1号線(3.2Km)ほか2線を拡幅整備

【平成28年度】 用地取得、整備工事

◇ 避難経路

- ・ 既存市道を活用した拡幅等整備や案内誘導標識等の設置を行い、避難経路を確保する

【平成28年度】 測量・設計・用地取得、整備工事

● 津波避難施設整備

津波から命を守るための避難施設を整備する
(平成28年度までに市内13か所)

《宮城野区内7か所の整備状況》

- ・ 中野5丁目津波避難タワー……平成27年2月完成
- ・ 岡田小学校 屋外避難階段……平成27年3月完成
- ・ 高砂中学校 屋外避難階段…… //
- ・ 港南津波避難タワー……平成28年3月完成
- ・ 岡田会館(タワー型)……平成28年度内完成予定
- ・ 新浜(タワー型)…… //
- ・ 岡田バス出張所跡地(ビル型) //

● 蒲生北部地区復興再整備

震災復興計画において新たな成長産業の集積を促進する地区と位置付けられている蒲生北部地区について、土地区画整理事業により防災集団移転後の都市基盤の再整備を行う。
(施行期間：平成26年度～平成33年度)

公共施設の適切な維持管理

● 市道整備

◇ 中の坂線(橋梁架け替え)

【平成28年度】 工事(国交相委託)

◇ 岩切駅自由通路(道路新設)

【平成28年度】 本体工事(JR委託)

田園などの景観を守り、自然と共生する

● 都市基盤河川改修事業(七北田川水系高野川)

【平成28年度】 護岸工事(河道暫定整備) 燕沢1丁目地内

● 公園整備

◇ 高砂中央公園

仙台港背後地土地区画整理事業地の中に計画された総合公園。仙台東部地区の緑の拠点となる公園を整備する

【平成28年度】 運動施設等の基盤整備工事、植栽工事

● 海岸公園再整備

(平成28年度蒲生地区)

- ・ 避難の丘……平成28年8月整備完了予定
- ・ クラブハウス……平成28年9月復旧完了予定
- ・ 少年野球場2面……平成28年10月開放予定
- ・ 野球場・テニスコート・園路広場…平成29年3月復旧完了予定

仙台の新しい顔となる基盤整備

● 鉄道駅周辺地区交通結節強化推進

仙台駅周辺におけるバス乗降場の再編や交通機関相互の乗り継ぎ利便性の向上などの取り組みを推進し、東北の玄関口にふさわしい交通結節機能の強化を図る。また、鉄道駅を中心としたエリアにおいて、歩行空間のバリアフリー化や駅へのアクセス道路の整備の他、駅前広場や自由通路など駅周辺環境の向上を図る

【平成28年度】 岩切駅(自由通路、エレベーター等整備)

共生のための基盤整備

● 学校教育施設整備

教室不足となった学校について、校舎の増築を行い、教室不足を解消し教育環境の整備を図る

【平成28年度】 岩切小学校増築工事

※平成29年1月 校舎共用開始予定

● 市民センター整備

地域活動や生涯学習活動、市民の交流の拠点である市民センターについて、中学校区を基準として計画的整備を行う

【平成28年4月】 鶴ヶ谷市民センター開館(改築)

【平成30年】 幸町市民センター(大規模修繕設計)

● コミュニティ・センター整備

地域における活動・交流拠点であるコミュニティ・センターについて、小学校区を基準として計画的整備を行う

【平成28年4月】 西山コミュニティ・センター開館(新築)

【平成29年度～】 東仙台コミュニティ・センター

(大規模修繕設計・工事)

【平成30年度】 鶴巻コミュニティ・センター

(大規模修繕設計・工事)

● 学校支援地域本部

市民が学校を支援する活動を通じて、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育成する体制を構築することにより、子どもたちは豊かな体験活動の機会を、市民には生涯学習の成果を生かす場所を提供するなど、地域や家庭の教育力の向上を目指す。

【平成28年4月現在、区内12校区に設置】

榴岡小学校、幸町小学校、鶴谷小学校、西山小学校、東仙台小学校、高砂小学校、鶴巻小学校、中野栄小学校、燕沢小学校、宮城野中学校、岩切中学校、中野中学校

皆様の声をお聞かせください。ご協力よろしくお願いたします。

仙台市議会議員(宮城野区)

赤間次彦 自宅事務所

〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字今市東 18-1

TEL・FAX : 022-255-0095

http://www.sendai-akama.jp

mail@sendai-akama.jp

赤間次彦 自宅事務所

